

とは云ながら、其開けざる事思ひやるべし、

〔飛州志^ニ〕奴^〇婢^〇事^〇人^〇期^〇限^〇

本土ノ民間ニ於テ、奴婢ヲ仕フノ期限アリ、各其期月ヲノス、益田郡ハ二月二日ヨリ同年ノ八月二日ニ至ル、又八月二日ヨリ翌年ノ二月二日ヲ限リトス、是半季也、大野郡吉城郡ハ、十二月ヨリ翌年ノ十二月ヲ限リトス、是一季也、大野郡國府高山町ハ、二月二日ヨリ翌年ノ二月二日ヲ限リ、一季トセリ、

〔飛州志^七〕度^〇市^〇參^〇

本土モトヨリ山國ナレバ鹽無シ、仍テ自他州ノ民、越中美濃ノ兩國ヨリ鹽ヲ牛ニ負セ、此州ノ市肆ニ來リテ買フ者ノ總名ヲ度市參ト云ヘリ、其市肆ニ於テ鹽ヲ預リ賣出スモノヲバ、度市參屋ト云イ、度市參宿ト云フ也、是他州ノ鹽問屋ト云フニ同ジ、按ズルニ、一月六次三度ノ市ヲ爲スハ、古代ノ政治也、其度毎ニハ遠近ト無ク民參リ向イテ商フニ、古昔ハ鹽ノミニモ限ルベカラズ、外ノ賣物モ交エタラン、サレドモ山國ニテ其重ンズルモノヲ先ヅ云フトテ、鹽ノ事ノミニ成リ來レルカ、六度三度ノ市ニ參ルト云フノ略語ナルベシ、中略

俗道場ソドドウジヤウ

本土ハ東西本願寺宗ノ寺坊多シ、寺號或ハ坊號ヲ稱スル中ニ、其主俗體俗名ニシテ法用ヲ務メ、村里ニ檀家ノ民アツテ、代々相續スルヲ俗道場ト云フ也、或ハ毛坊主トモ云ヘリ、道場ハ宗旨ノ通稱タリ、

〔笈埃隨筆^ニ〕飛驒里

夫飛驒國は、美濃、越前、加賀、越中、越後、信濃の六國の間にはさまりて、深山幽避極て片土下品の國也、諸の山々幾重となく重り、鬱々として日光の届ざる所有、谷深く坂路さかしく、斯る嶮難の地